

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3070104280 | | |
| 法人名 | 有限会社 ふるさと | | |
| 事業所名 | グループホーム ふるさと | | |
| 所在地 | 和歌山市小瀬田85番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年 3月 5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年5月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070104280&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 和歌山県社会福祉士会 |
| 所在地 | 和歌山市太田1丁目13-1 駅前東ビル 4階F室 |
| 訪問調査日 | 平成23年3月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人は勿論、家族も交えて要望を聞き適切と思われるアドバイス等を行い、少しでも快適な毎日が過ごせる様に支援している。常に入所者中心に何事も考え行動して、出来る限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日を過ごすには健康管理が重要である。その為、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられる様にして医療連携を特に重視している。なお、受診するについての送迎等は、車椅子移動車を導入して、出来るだけご家族様にご負担を掛けない様に配慮している。基本的には、次の三つのスローガン基に何事も考え行動している。1. 常に入居者様を中心に如何にして安心して快適な毎日を過ごして頂くことが出来るか。2. 入居者様の健康管理について、些細なことでも見逃す事がない様十分な管理を行い、常にベストな体調を維持しているか。3. ご家族様には安心して預けたい頂き、ご家族様のご負担軽減にお役に立つ事が出来ているか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで自然豊かな環境の中、開放的で温かみのある玄関は誰もが入っていきやすい雰囲気がある。ホーム内は明るく家庭的で、入居者が個々に安心して過ごせるような場所となっており、日中のほとんどを共有空間で過ごしている。
施設長、副施設長は熱意を持って運営にあたり、職員も向上していこうという意欲がある。入居者が安心して快適に毎日を過ごせるホームを目指し、入居者の事を第一に考え行動し、日々の健康管理は元より、適切な医療が受けられるよう医療連携を密にし、日々の介護に取り組んでいる。外部の講師を招いての勉強会を定期的に行うなどの一人ひとりの自己研鑽にも力を入れている。
近隣との交流や住民との連携もできており、地域とつながりながら暮らす基盤が構築されている。災害を予測し、対策を講じ、それを基に、定期的に入居者、職員、地域住民が協力して訓練を行う事で実践力を身につけるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念が十分共有され実践出来る様、ホール掲示板に掲示している。管理者・職員は会議等の場で取り組みのあり方を検討し、職員個々の考えや要望を出している。事業所はのどかな自然の中にあり居室は、大きな掃出し窓を設け芝生に出られる等開放感を満喫出来る様している。 | 管理者と職員は、理念を共有し、会議等で具体的なケアに反映できるように話し合い、日々の実践に活かせるよう取り組んでいる。入居者が自然の中、地域の中で安心して自由に暮らせるよう、常に考え行動している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 近所との交流は運営推進会議を通じて深まっている。旬の果物や野菜持って来て下さり、ホームの行事にも参加してしてもらっている。地域の行事(掃除、祭事等)にも積極的に参加して交流に努めている。 | 地域の行事(文化祭)に入居者の作った備前焼を出展するなど積極的に交流を行っている。普段の暮らしの中で挨拶を交わしたり、近所の方が気軽に立ち寄れる間柄がつけられている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議開催を通じ、地域の方々、地域の高齢者の方々との親睦を深めている。地域の方々を含めて介護教室を実行すべく調整している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的に地区住民代表、家族代表、包括支援センター、民生委員、市役所支所長、自治会長の参加を得て開催している。ホームの活動状況、入居者の状態、災害時の支援等について話合っており意見を頂いている。 | 運営推進会議では、職員と地域の方々に参加できる「介護についての勉強会」の開催を企画したり、災害時の連絡網の作成、具体的な協力体制の検討などの会議が活発に機能している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 和歌山役所安原支所とは連携を密にしており、支所長自ら行事等に参加して下さって『サクソ演奏』をボランティアで楽しませて頂いています。また連合自治会長の応援もあって、色々の情報交換に協力して頂いています。 | 運営推進会議を通じて、安原支所、地域包括支援センターとの連携が図られている。市役所に対しては積極的に会議の案内を届けるなどの働きかけを行っている。 | 市役所に対しては、今後とも、今までと同じような働きかけを行っていき、連携が図れるようになり、これまで以上の高いレベルを目指すことを期待する。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部講師を招いて、法令を学ぶべく機会を設けている。マニュアルの作成や職員会議でも話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 外部の講師を招き研修を行うなど管理者、職員が身体拘束防止について正しく理解している。その上で、職員会議等で入居者に対するケアについて話し合い、考え、取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内での研修を始め、外部の専門家を講師に招いて勉強会を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 前項と同様、専門家を講師として勉強会を行っている。また、入居者の中に実際この制度を利用している人がいるので、実務を通じての勉強も出来ている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には入居後予測されるリスク、心身の低下、退去時要件等を説明するに当たって出来るだけ、専門用語・略語等を避ける様心掛けて、理解して頂き易いようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者の心身の些細な変化も見落とさない様注意している。今利用者は何を求めているのか、何をしたいのか、的確に把握する様に努めている。ご家族様とのコミュニケーションは常に密にして、何でも言えるムード作りに心掛けている。また各棟にご意見箱を設置している。 | 運営推進会議時に出された意見や要望については適宜対応している。家族には、アンケートを使って意見を求めたり、訪問時にコミュニケーションを図ることを心がけており信頼関係の構築に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 最低月一回以上全体会議及びチームカンファレンスを行って、この場で職員からの意見や提案について出席者全員で検討している。職員ノートを作り自由に思いついた事や、自己の反省、情報の共有など職員が記入して、全体会議の議案として検討している。 | 職員が意見や要望を言い出しやすいように、会議の前には職員全員で食事をし、「ご意見ノート」を活用するなどの工夫がなされている。出された意見については、運営上の改善につながるよう検討し取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 専門家を招き職員の考えや希望に答えられる様にしている。また就業規則を見直し安定、安心して働けるよう職場環境を整えている。職員代表を選出しなんでも話せる風とうしの良い環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部講師を招き職員の資質の向上に努めている。また職員個々に年間の目標を立て、この目標達成に向けて、夫々が創意工夫をして取り組んでいる。各種研修には積極的に参加出来る様、時間・費用等配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 本年度も、他施設の現場実習に参加させて、自施設にはない良い面を勉強する様、交流の機会を深められる様努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前より本人・家族の方にホームへ遊びに来て頂き、各種行事にも参加して頂き雰囲気を感じて貰う様努めている。またデイサービスを利用して頂き環境慣れて頂く等信頼関係を築く様努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 個々のご家族の状況が異なる為、入居前に本人の状況、生活歴、病歴等を傾聴し、また家族の意向十分話し合いの場を持ち、同じ立場に立たせて頂く事で信頼関係を築ける様努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族と言えども、入居者本人の状態を正しく把握出来ていないケースもあるので、先ず本人の状態を把握すべく努力した上で、家族の意見も考慮して話し合い本人に最も必要とするサービスを決めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常に入居者様を中心に考え行動し、入居者様から信頼して頂けるよう、季節の行事や年中行事に取り組み活気ある生活になるよう工夫し、また日々の食事においても入居者様の食べたいものをメニューに反映させるなど創意工夫をこらしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ふるさと便りを通じて、入居者様の日頃の生活を写真を付けて近況報告を行っている。家族の要望、質問等何でも気軽に話せる、気兼ねの要らない関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 深夜を除いて、面会時間は自由になっており、気兼ねなく来所して頂けるよう努めている。家族以外の知人の方等も自由に来所して頂き、入居者の友好関係を大切にしている。外出、外泊時送迎等の要望にも応じて支援している。 | 昔から利用している美容室に友人と出かけたり、友人と外食をしたり、墓参り出かけるなど入居者一人ひとりの生活習慣を尊重し、馴染みの知人や友人との交流が継続できるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者の出来る事、解る事、を職員間で共有して、出来ない事、解らない事だけをサポートする様に努めている。入居者各自の個性を尊重して、支えあう場所作りに努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了しても、入居中の信頼関係は大切にしておき、適時連絡を取っている。(例えば入院した場合、病院へ様子伺いに行く等) また退所後であっても来所は自由であり、相談があれば応じている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者一人ひとりの思いや要望を聞き出し、職員各々が常に関心を持ち、より添えるよう努めている。またその思いや要望を家族に伝え、困難な場合はご協力頂いたりして、本人の思いや要望に応えられるよう努めている。 | 日々のかかわりの中で、思いや意向を引き出せるように努力している。自己表現が難しい方の思いに対しても職員全員で意見を出し合い、試行錯誤を繰り返しながら、把握できるよう取り組んでいる。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族との対話の中から新たな情報を収集すると共に、本人の生い立ちや生活歴や病歴等について可能な範囲の情報を頭に入れて、適切な支援を行っている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員ほぼ全員が全入居者の状態を把握出来る様、職員間ノート、会議、カンファレンス等を用い情報の共有に努めている。また心身、身体に対する支援については、主治医の指示、指導を徹底出来るよう努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員全員が日常生活での入居者一人ひとりに対する、ケアのあり方を会議等で検討している。本人・家族の意向も含み、夫々の意見が入居者に反映される様、介護計画を作成し取り組んでいる。 | 計画作成、モニタリングについては、カンファレンスを行い、職員全員の意見が反映されるよう配慮している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常生活状況は、一人ひとり個人記録を作成して、時系列的に記録している。その記録には職員で情報を共有出来る様、家族との話や医療面についてもまとめて記録している。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 複数の医療機関と連携をとり、定期的な通院・往診を行い健康管理に十分配慮している。また医療機関からも指示・指導・助言を頂き日常生活で、本人・家族の希望に沿えるよう支援している。季節毎の行事、地域・本人・家族との繋がりを強固にする意味の『お花見会』等積極的に取り組んでいます。 | | | |

| 自己評価 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進委員である民生委員、連合自治会、地域自治会、市役所支所長等の協力のもと、各種催事の情報等をいただき参加するようにしている。地域の文化祭に備前焼を出品させて頂き、見学にも行きました。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関とは連携を密にしており、利用者の各種指示・各種感染症予防等の指導を頂いている。また夜間緊急時等には迅速に対応して協力頂いています。 | 内科、整形外科、眼科、歯科、皮膚科等の医療機関とは密に連携しており、必要に応じて即対応できるようにしている。入居者が希望する病院へ受診ができるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションの看護師が随時、緊急時他相談指導等対応して頂いています。往診には医師は勿論、看護師も同行されて日々の生活状況、体調等について職員を交えて相談に応じていただいています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者の状態については、往診を通じて医師・看護師共に把握して頂いているので、入院しても適切な処置が直ぐ取れるので、退院も比較的早く出来る事が多い。退院後のホローについても、臨時の往診等十分な対応をしていただいています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族様の意向を十分に聞き、医師・看護師を交えて情報の共有を図り、連携を密にしている。入居者本人にとって一番適切な施設の紹介、または今後重度化していった時の対応等について、適宜家族と話して相談に応じている。 | 現状として、重度化や終末期のあり方に関して対応を要する事例がないが、本人や家族の意向を十分に汲み取り、医師、看護師、職員の連携をとり対応できるよう取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時等事故発生時に備えて、マニュアル等を作成し会議等で対応について話し合い、パニックとまらない様注意している。利用者の急変時は、主治医や看護師に指示を仰ぎ、冷静に対応する様にしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に災害に備えて訓練をしている。スプリンクラーの設置も終り、取扱ひ方の説明会も行いました。運営推進会議を通じて、地域の方々と連携出来る様連絡体制を整えている。万一に備えて避難袋食事等備蓄している。 | 定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて地域住民との協力体制(連絡網の作成、避難場所への移動支援等)を整えている。家具の固定や避難持ち出し袋の準備など日常的に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は利用者を損ねる様な言動及び不穏にさせる様な言動について、互いに注意出来る様話合っている。個人情報の取扱いについても、十分注意を喚起している。また専門家を招いて勉強会を行っている。 | 排泄介助の際には、特に配慮を行っており、他の入居者の前であからさまに介護を行うようなことや本人を傷つけることのないような、言葉かけや対応を管理者・職員全体で考え行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いを表現し易い様、写真や絵(筆談含む)等用いて、解る力に合わせて説明して、本人自身が納得して決めたりして貰える様努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日のスケジュールを特に決める事なく、一人ひとりの生活リズムを把握し、利用者には職員が寄り添い傾聴出来る様配慮し、一人ひとりの思いを汲み取る様対応し、可能な限り希望に沿える様努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者各自の希望に沿える様、訪問理美容を利用されたり、お気に入りの理美容店を希望する人には、要望に添える様に対処している。思い思いのおしゃれが出来る様通販を利用したりして、身支度には各自の思いを汲み取り対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立を作る時入居者の希望を取り入れたり、近所から買った旬の野菜や果物を用い、季節感楽しめる様な食事作りに努めている。食事の準備、片付け等各自の状態に合わせて参加して頂いている。職員も同じメニューと一緒に食べて、世間話等しながら楽しく食事出来る様努めている。また外食会にも出掛けて雰囲気を楽しんで頂いている。 | その日のメニューは、過去の食事の写真や新聞のチラシをヒントにして入居者と相談しながら決めていく。ワゴンサービスを行い食事を楽しむことができる工夫がなされている。すし屋や蕎麦屋に食事に出かけることも、外出と外食という二重の楽しみになっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分摂取量のチェック表を作成している。一人ひとりの状態を把握して、トロミ材を使用したりして摂取しやすい様工夫している。食事量、栄養のバランスに於いても、常に主治医に相談して調整している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの状態に合わせて、食後のうがい、義歯の洗浄等支援している。義歯の洗浄は夜間に洗浄剤等を使用して、清潔で気持ち良く食事して頂ける様工夫している。 | | |

| 自己評価 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 各人の排泄リズムを把握し、適時にさりげなく声掛誘導を行い、トイレでの排泄に努め不快な思いをしないよう考慮している。カンファレンス等で職員間で話し合い、リハビリパンツ等の使用についても適・不適を見出し、個人の思いを考慮してサポートしている。 | 一人ひとりのサインを職員が察知し、さりげなく支援を行っている。紙パンツから普通のパンツに変更する等、個別の排泄方法についてをカンファレンスで検討し、常に見直し、自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェックは毎日記録しており便秘にならない様、各人の嗜好食品も考慮して食事面からもサポートしている。また主治医とも相談して各人に応じた対応をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴準備は毎日行っている。一人ひとりの思いを聞き取りながら入浴を支援している。また入浴が出来ない状態に於いても、手・足浴・清拭・シャワー浴等も取り入れ、心地良い生活をおくって頂けるよう努めている。 | 特別な時以外は、ほぼ毎日入浴している。入居者の状況に合わせて手浴、足浴も行っている。現在入居されている方については主治医に病状を相談し、夜間の入浴は負担が大きいとのことから行っていない。一律ではなく、一人ひとりの希望にあわせ実践している。 | 今後、夜間に入浴を希望される入居者に対して、主治医、職員とが連携をとり、実現に向けての対応が期待される。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 各人の生活習慣や病状の把握により、居室内で休息して頂く様サポートしたり、安心して眠りに入れる様、空調を事前に調整しておく等、一人ひとりが安眠して頂ける様工夫している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医との連携を密にして、往診ノートに記録して、各自の状態を確認出来る様工夫している。医療機関受診、投薬等の記録を作成しており、服薬についても適切な支援が出来る様努めている。また、病状の変化があった場合、適時主治医の指示をもらい適切に対応している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活では洗濯物を分けて畳む、干す、家事への参加等、一人ひとりの役割や楽しみのお出番を作れる様、生活歴も考慮してサポートしている。各人の得意な分野を見出し、張り合いのある場面作りにも努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 季節によって異なるが、各居室の掃出し窓の開放して芝生に自由に入出入り出来る様努めている。近隣を散歩したり、ホーム内の畑には「梅に花」や「桜の花」が楽しめる様工夫している。各人の希望で理美容に行ったり、買い物に出掛けたりして要望に応えている。またホームの行事として、ご家族・地域の方々と一緒に「花見会」等設け、普段出掛けられない外出支援も行っている。 | 近隣への散歩や買い物は入居者の希望にあわせて行っている。毎年の恒例の行事として、家族や地域の方々の協力を得て『花見会』を開催しており、入居者は心待ちにしている。自宅や知人宅への外出なども希望にあわせ、積極的に行っている。庭や畑には、梅や桜もあり、身近に季節を感じられるように工夫されている。 | |

| 自己評価 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者各人の状態に合わせてご家族と相談の上、管理が可能な人は本人が管理している。訪問理美容費や嗜好品などに本人が使える様にサポートしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者各人の状態に合わせてご家族と相談の上、サポートさせて頂いている。(電話の呼び出し、郵便の投函等) また、携帯電話をお持ちになっている方もいるが特に規制はしていません。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間には季節の花(利用者が活ける)や植木を植えて、みどりの空間を多く作っている。心地良く過ごして頂く為、障害物にも配慮している。ホールはテレビを大型に変えて、皆さんが楽しんで頂ける様な空間作りをしている。 | 共有空間は天井が高く、明るく開放的であり、入居者が活ける季節の花が飾られており、居心地の良く過ごせるよう工夫されている。テーブルや椅子の配置は、入居者の状態に合わせて毎日調節している。空気清浄機や加湿器を置き、健康管理に努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 南向きの日当たり良い場所にテラス(ベンチ)を置き、外の景色が楽しめる様にしている。また、玄関ポーチには椅子を並べて思い思いに自由に移動して楽しめるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前に使用していた馴染みの家具や置物を持って来て頂いています。各居室には掲示板をつけて、家族様や思い出の写真等を貼り自由にご使用して頂けるよう工夫している。ご仏壇を持ってこられている方もいらっしゃいます。 | 居室には馴染みの家具などが持ち込まれ、壁に設置している大きなコルクボードには写真などが飾られており、入居者が落ち着いて過ごせるよう工夫されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 利用者各人の『出来る事』『わかる事』をサポートする為、生活空間に於ける障害物をなくし家事参加等積極的に参加して頂ける様、調度品の設置に配慮している。 | | |